

あなたが思い浮かべる野鳥公園は、どんな空間ですか？

訪れた人たちが、野鳥を身近に感じ、鳥がいる自然環境の素晴らしさを感じることができる空間。

生物多様性の大切さを知り、驚きや感動を体感することのできる空間。

アイランドシティというまちの魅力を向上させ、新たな価値を生み出す空間。

そして、周辺に広がるエコパークゾーンへとつながる空間。

野鳥公園は、皆さんが思い描く様々なアクティビティを実現する空間でもあります。

野鳥公園は**成長**します。それは野鳥公園が限られた立場や世代のための空間ではなく、皆さんの成長にあわせた多様性が生まれる場所だからです。野鳥公園は人によって育てられ、そして野鳥公園が人を育てていきます。

野鳥公園は**新たなコミュニティ**を育みます。それは皆さんと公園との新しい関わりとなり、共働によるパークマネジメント（公園運営）を介して、人と人とのつながりを育てていきます。

野鳥公園は**魅力あるまちづくり**へ展開します。それはアイランドシティというまちの成長とともに生きものの命を育み、そして持続可能なまちとして子どもや孫たちの世代へと繋げていきます。

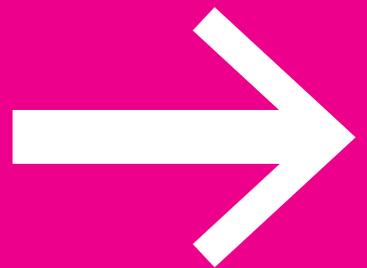
concept



# 成長する野鳥公園

～人と自然が共に成長し続けるために～





# 野鳥公園 ストーリーボード

野鳥公園での一つの場面  
(イメージスケッチ)

両親の若き日



場面の解説  
(ストーリー)

先月、私たちの新聞のポストに「アイランドシティで野鳥公園づくりが始まります！どなたでも参加できます！」という1枚のチラシが入っていた。どうやら、アイランドシティに野鳥公園が完成されるみたい。でも、野鳥公園ってどんな公園なんだろう？  
野鳥公園が何なのかはよく分からないけど、将来私たちの子どもを連れて行けるような公園ができるのは嬉しいし、何より自分が公園づくりに参加できることなんてめったにない機会だから、夫と参加してみようとした。  
ふと、思い出すのは「ラウンジカフェ」っていいみたい。カフェに飲んで、みんながワイワイする！ラウンジカフェにはいろんな人たちが来ていて、「子どもと一緒に家族で楽しめるのができる公園になるといい」って考えている人がいた。私と同じ事考えてる人がいるんだと嬉しく思った。でも、野鳥の目標から考えると、子どもの立場から考えると、親が「なるほ、見よう」って思えば、ラウンジカフェの「公園」も「公園」ができる。

## ストーリーボードって??

「アイランドシティの未来を語り合おう」プロジェクト  
すべての物語は、このラウンジカフェから始まった

コンセプト「成長する野鳥公園」に基づき、野鳥公園でできることを表す一つのシーン（場面）をイメージスケッチとストーリーで描いています。

## 両親の若き日



先月、私たちの新居のポストに「アイランドシティで野鳥公園づくりが始まります！どなたでも参加できます！」という1枚のチラシが入っていた。どうやら、アイランドシティに野鳥公園が整備されるみたい。でも、野鳥公園ってどんな公園なんだろう？

野鳥公園が何なのかはよく分からないけど、将来私たちの子どもを連れて行けるような公園ができるのは嬉しいし、何より自分が公園づくりに参加できることなんてめったにない機会だから、夫と参加してみることにした。

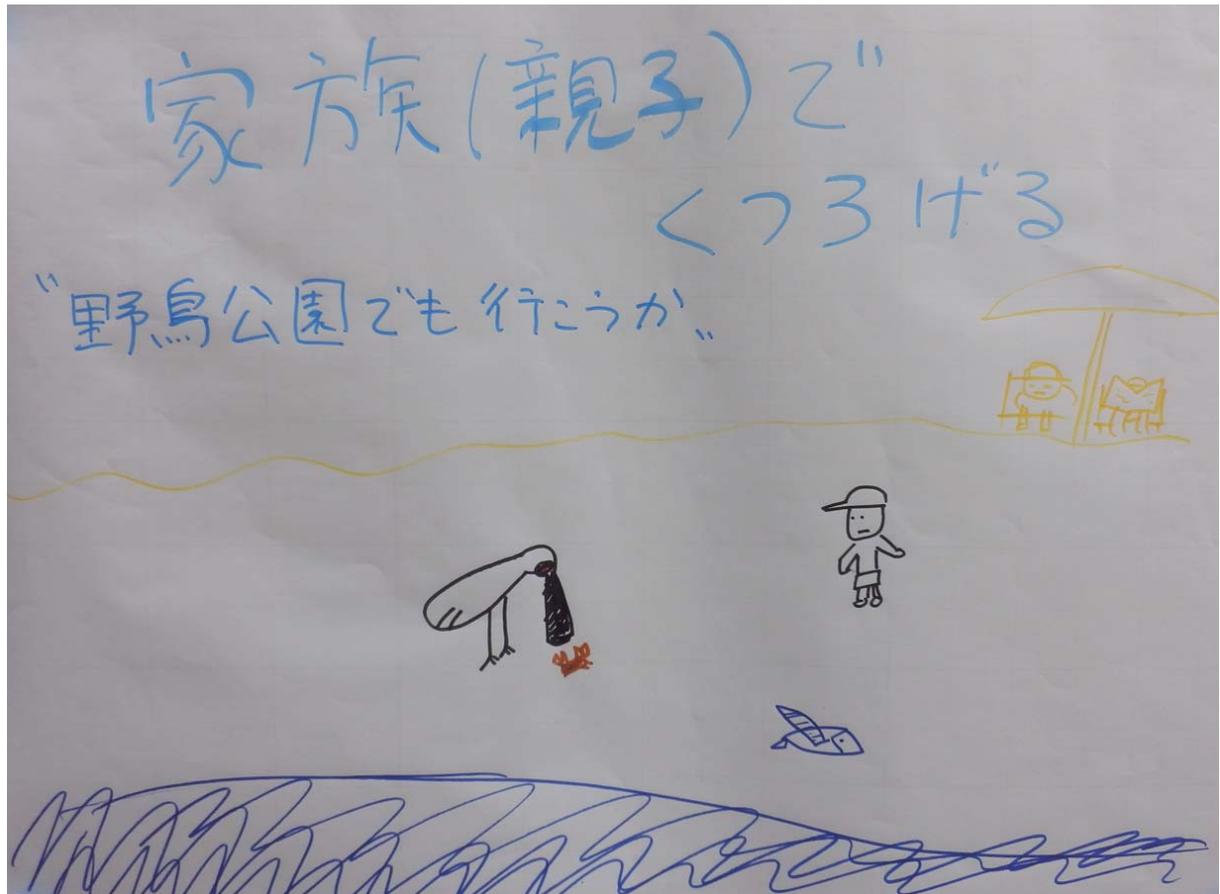
この話し合いのことは「ラウンジカフェ」っていうみたい。カフェだなんて、なんだかワクワクする！ラウンジカフェにはいろんな人たちが来ていて、「子どもと一緒に家族で楽しむことができる公園になるといい」って発表してる人がいた。私と同じ事思ってる人がいるんだと思うとすごく嬉しい。他にも、野鳥の目線から考える人、子どもの立場から考える人、それぞれの意見が「なるほど」と思うことばかり。ラウンジカフェの帰り道、夫とも「公園ができるのが待ち遠しいね」と話しながら帰った。

アクティビティのキーワード

- ・ 市民参加の公園づくり
- ・ 対話（ダイアログ）
- ・ 意見を語り合うラウンジカフェ



すべての物語は このラウンジカフェから始まった



野鳥公園のオープンまであと3年。オープンまでの期間も、一緒に野鳥公園をつくっていこうという主旨で、今年以降に生まれた赤ちゃんは特別に、誕生記念植樹をさせてもらえる。「これから公園とともに成長していこう。」という意味が込められているそうだ。今年の春に生まれた僕を連れて、両親は記念式典に出かけた。

樹木のネームプレートには僕の名前と生年月日、そして手形が入っている。両親は毎年この木と並んで成長する僕と、そして成長する野鳥公園をバックに、家族写真を撮ることにしてみたいだ。

入口でもらった公園のパンフレットには、オープン後の色々な場面が描かれている。芝生広場や眺めの良い場所、森や水辺などを目にした両親は、オープンまでに一部開放される予定の芝生広場に、今度おじいちゃんおばあちゃんも連れてピクニックに来ようと話している。

#### アクティビティのキーワード

- ・海を見ながらくつろげるピクニック
- ・誕生記念植樹
- ・オープニングに向けたどんぐりの植樹（小学生対象）



新しく家族になったきみと、新しくオープンした野鳥公園で  
野鳥とともに成長する家族のストーリーが始まった

# 子ども時代（幼児）



僕が歩けるようになってから、母親と毎日のように野鳥公園にお出かけ。来年に本格オープンを控え、園内の色々な場所が姿を見せ始め、そしてそこには既に野鳥が訪れている。

お気に入りの場所はなんといっても干潟と淡水湿地。潮干狩りやカニ遊びができるし、泥んこになってもお母さんに怒られない、絶好の場所だ。雨の日はガイダンスセンターに行って、珍しい野鳥を見たり、いろんな野鳥が載っている絵本を読んで過ごしている。

日曜日は、お父さんも一緒に公園にお出かけ。お母さんがチェックしてくる親子参加の公園づくりプログラムにいつも参加するんだ。

今日は、森の中を歩ける木道づくり。少し歩きにくいところがあって、いつもラウンジカフェで話しているお父さんお母さんたちが思い立って木道をみんなで手作りすることにした。今まで危ないからお母さんと手をつないで歩いてたけど、木道ができたら一人で歩いてみようかな。

## アクティビティのキーワード

- ・ 干潟と淡水湿地であそぶ（潮干狩り、カニ遊び）
- ・ 鳥のさえずりを聞きながら家族で散策（木道を寄付）
- ・ 観察センターで親子で野鳥観察
- ・ 野鳥に関する絵本を読む
- ・ 市民による公園づくりプログラム



駆け回っていた幼き日の記憶

そばにはいつも母の笑顔があり、そして野鳥がいた

# 子ども時代（小学生）



僕の通っている小学校では1年生から6年生まで50人が所属する「エコクラブ」というのがある。干潟の生き物観察をしたり、夏はいそ遊び、秋は木の実拾いなど自然観察を行っているクラブだ。クラブの一大イベントは、なんといっても夏のエコキャンプ！野鳥公園に泊まって、友達と自然についての勉強や遊びをする行事だ。

公園を管理する人から、和白干潟や公園に住んでいるたくさんの生き物のことを携帯ゲームを使って教えてもらったり、外に出て野鳥観察会や、地域の人が教えてくれる「塩づくり」や「ノリづくり」教室もあって、次はどんなことができるかわくわくする。翌朝は楽しみにしている鳥のさえずりを聞きながらの散歩、早起きしなきゃ。

そして、毎年、エコキャンプのいろんなプログラムを終了すると称号がもらえる。

1年生のときはエコルーキーだったけど、3年生の今年はついにエコリーダーの称号をもらった。来年は誰より早くエコマスターの称号をとるぞ。

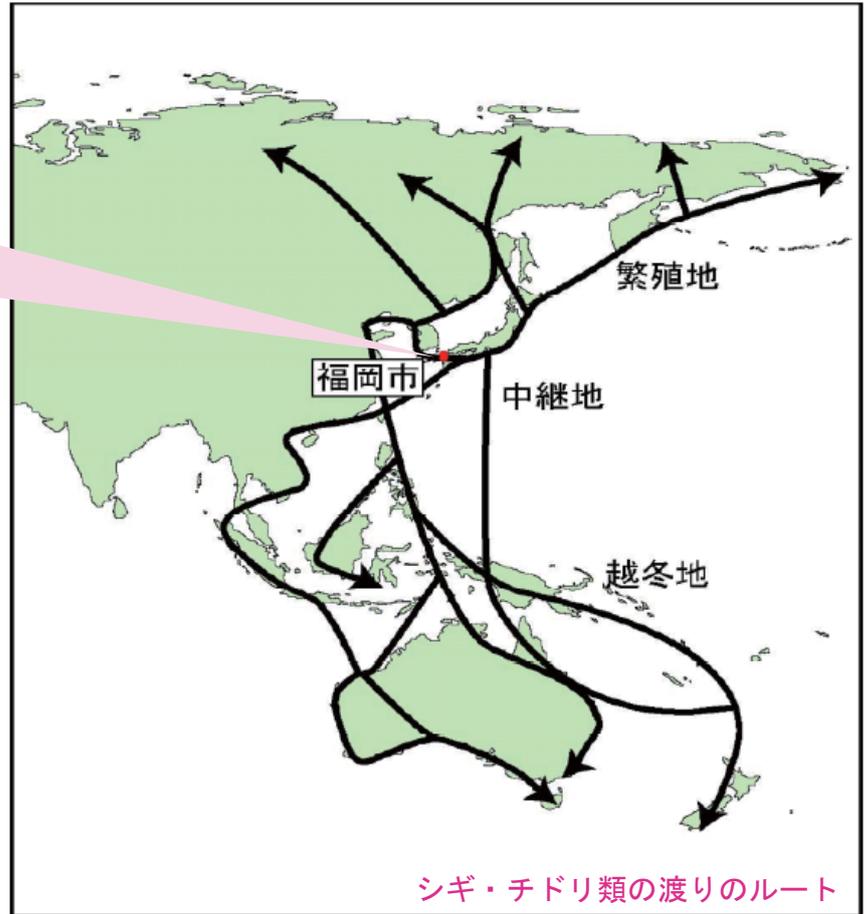
## アクティビティのキーワード

- ・エコキャンプでの野鳥観察会
- ・携帯ゲームを使用した環境参加型プログラム
- ・自然観察のクラブ活動
- ・周辺の小学校による遠足
- ・干潟の生き物観察や体験学習
- ・夏はカニ遊び、秋は木の実拾い
- ・地域の「塩づくり」や「ノリづくり」学習



誇らしげな僕らの胸には キラリと光る勲章が  
楽しみながら過ごした日々は 少し大人になった証

## 【トピック：野鳥の視点①】



僕は野鳥のハマシギ。エコパークゾーンに来てくれているみんなにはすっかりおなじみになったかな？  
ちょっと前までは、この辺りで休息場所がなかったけど、この秋に来てみたら、随分変わっていてビックリしたよ。

なんでも、和白干潟近くのアイランドシティで工事をしているのは知っていたけど、その工事が終わって、いよいよ野鳥公園がオープンしたんだって。

今回も昨年と同じように博多湾に飛んできたら、その眼前に広がる光景にびっくり！僕らの休憩におあつらえ向きの石組みが整備されていたよ。まさかこんなお・も・て・な・しを受けるなんて、ちょっと前までは想像できなかったからね。近所のススメは陸地で砂浴びに夢中みたい。すっかり常連なんだなあ。

今日も石組みの上で仲間たちと羽を休めていると、野鳥公園の観察小屋から、子どもたちが息をひそめて僕らのことを見ていたよ。

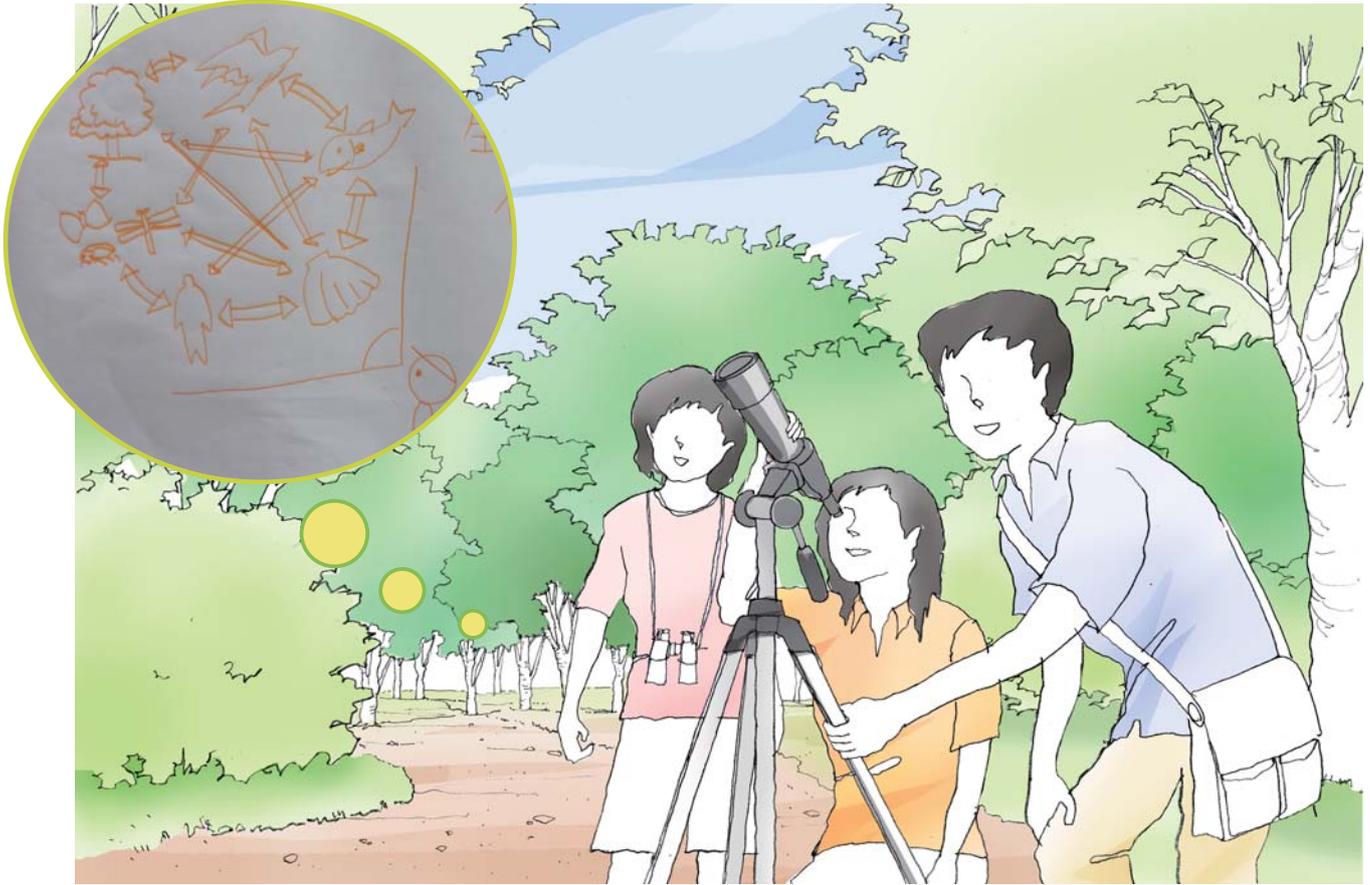
アクティビティのキーワード

- ・ 観察小屋からの野鳥観察
- ・ 野鳥の休息場としての石組み
- ・ 鳥が少ない夏は干潟観察
- ・ 野鳥の砂遊び



あれはなんだい？ あれは野鳥公園さ 野鳥公園ってなんだい？  
市民みんなの学びの場さ そして 僕らのための 空間さ

## 子ども時代（中学生）



今日は月1回の博多湾エコプロジェクトの日。プロジェクトリーダーの呼びかけで、近くの小・中学校をはじめ、地域のいろいろな人たちが参加して取り組んでいる。

野鳥公園の中の鳥たちの住みかは、博多湾全体でみると、ほんの一部だ。博多湾全体を居心地良くして、公園にたくさんの鳥たちが飛来できるようにしたい。それがこのプロジェクトの目標。

プロジェクトでは博多湾の清掃を行うクリーンアップ活動もあれば、公園に鳥のエサや住みかとなる植物を植えることもある。

今日は、プロジェクトリーダーに専門的アドバイスをもらいながら半年前から進めてきた、干潟に生き物を定着させるプロジェクトの第一弾。前回、企業の人に提供してもらった廃材を仕掛けたので、その経過観察に来たところ。経過は良好！アサリやカニや小魚がたくさん住みついていた。

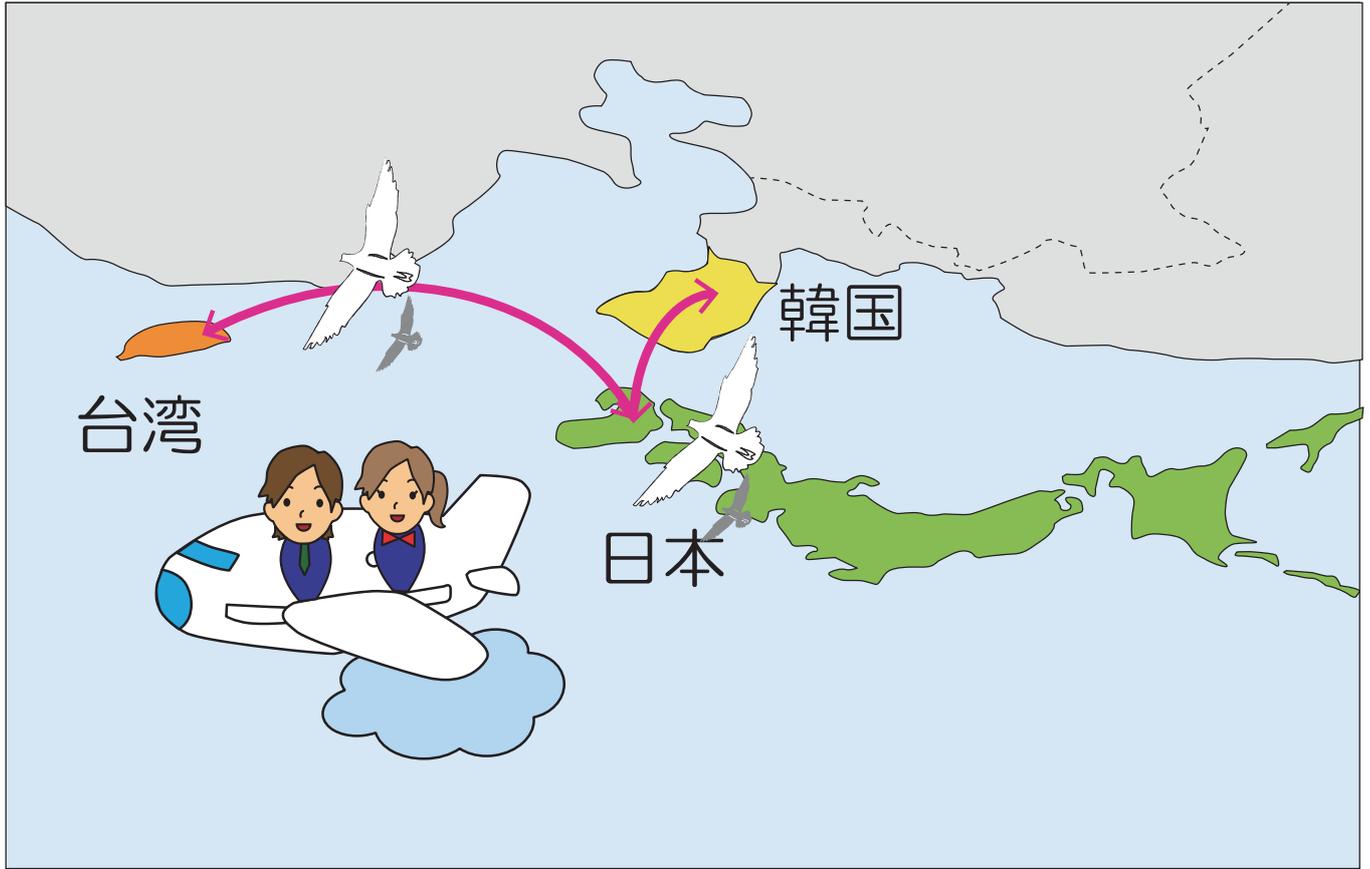
僕たちには快適な公園でも、生きものたちにとってはまだまだ環境を良くしていく必要がありそうだ。

アクティビティのキーワード

- ・ 野鳥公園主催のエコプロジェクトに参加（クリーンアップ活動等）
- ・ エコプロジェクトへの企業協力
- ・ 干潟や淡水湿地の野鳥観察会



初恋の君が参加するからと 思い切って参加したエコプロジェクト  
新しい世界に触れて 僕は野鳥に恋をした



僕は、子どもの頃から野鳥公園でいろんな活動に参加してきたけど、高校でも野鳥部に入って、仲間たちと一緒に野鳥公園に飛来する鳥の観察をし、記録をつけている。土日には、地元のエコクラブに所属する小学生を相手に、野鳥公園に来る鳥の生態や野鳥観察のポイントを教えたり、落ち葉や木の実を使った工作をしたり、野鳥公園子どもネットワークの拡大に向けて、勢力的に活動中だ。

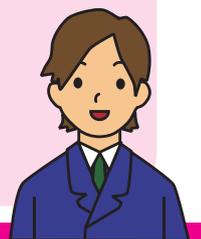
今年の冬休み、クロツラヘラサギが行き来する韓国から留学生がやって来た。今回は留学生との交流を僕たち野鳥部が責任を持って引き受けることになった。留学生には期間中、クラブ活動に参加してもらって、野鳥公園の取り組みを紹介したり、実際に足を運んで日本の野鳥の生態を観察してもらった。

留学生は「野鳥公園があるから韓国で育った鳥たちは安心して日本に飛んでいけるね。韓国のみんなにも僕たちの故郷にいた鳥は元気だったと伝えたいな」と笑顔で話してくれた。

野鳥を守っていくためには世界とつながって、協力の輪を広げていかなければならない。

## アクティビティのキーワード

- ・ 飛来する鳥の観察、記録
- ・ 野鳥に関する講演会への参加
- ・ エコクラブとの連携
- ・ 野鳥を通じた国際交流イベント
- ・ 部活のフィールドとしての活用



いつしか僕は 野鳥のように 海を渡り  
まだ見ぬ世界へと 羽ばたこうとしていたのかもしれない

## 【トピック：野鳥の視点②】



僕は野鳥のオオヨシキリ。その名の由来は、ヨシの茎を切り裂いて、中にいる虫を捕食するからってことになっているんだ。

これまでは室見川河畔なんかには行ってただけど、最近エコパークゾーンに完成した野鳥公園に、とても居心地のいいヨシ原が自生しているっていう話を仲間に聞いて、早速やって来たってわけです。

これまで、他の仲間は、結構エコパークゾーンにお邪魔していたみたいだけど、僕らみたいなヨシ原を住みかにする野鳥にとっては、あまり居心地がいい場所がなかったんだよね。でも、ようやく待望のヨシ原が広がったってことで、他にもたくさんの野鳥が来るようになるんじゃないかな。ここのヨシ原は最高だと思うよ。この間も、フィールドスコープを覗いていた人と目があったけど、みんな僕たちのことが大好きみたい。いずれにせよ、僕らにとっては、いろんな選択肢が増えるってことは歓迎すべきことだと思うよ。これが野鳥公園だね。

私はツグミ。

アキグミがそろそろ食べ頃だからいただきに来ました。この辺にある木は私が生まれる前、お父さんたちが立花山で食事したあと、野鳥公園に立ち寄ってフンをして、その中にあった種が芽生えたものなの。

まだ木は大きくないけど、私がここに来たときはいつも先客が何羽もいるわ。先日はムクドリに会ったけど、あと何年かしたら立派な木々になるから、子どもや孫たちのためにも今のうちに良いねぐらを見つけとかなきゃって張り切ってるみたい。

今日止まった枝には、板のようなものが下げられていて、人間の字は読めなかったけど・・・私の写真が貼ってあったの！私がこの木にいつも止まっているのをみんな知ってるのかな？

普段人間のことは意識してないけど、私たちのことをそっと見守っていてくれたら、これからもたくさん鳥がきて、自然豊かな森になるわ！



「最近 僕らにとって 居心地のいい場所ができたみたい」

「あそこでしょ アイランドシティの野鳥公園！！」



子どもの頃は頻繁に通っていたけれど、学生になってからはすっかり足が遠のいてしまっていた。ここ野鳥公園に久しぶりに訪れることになったのは、大学のインターンシップのためである。

子どもの頃、両親が自然あふれる場所に頻繁に連れて行ってくれたおかげか、大学では生き物の生息環境の保護に関係する分野を専攻した。就職活動を目前に控えた時期になって、昔よく遊んでいた野鳥公園でインターンシップの受入があることを知り、2週間の実習をお願いした。

まず、昔と公園の様子がずいぶんと変わっていて驚いた。聞くと、ここは和臼干潟という大きなスケールで人と野鳥が居心地よく過ごせる環境をつくり続ける、進化を止めない公園なのだ。

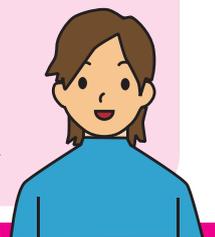
実習では、普段は園路部分にしか入ることのできない自然にまかせるエリアに足を踏み入れ、状況確認調査やメンテナンスをやらせてもらえる。これは野鳥の生態を近くで感じながらの緊張感がある作業だ。

僕の他にももう一人インターンシップ生が来ていた。彼女は野鳥が食する植物を使って、公園に来た記念になるお土産品の開発に取り組んでいるとのこと。野鳥の生態を伝える良い取り組みだと思う。

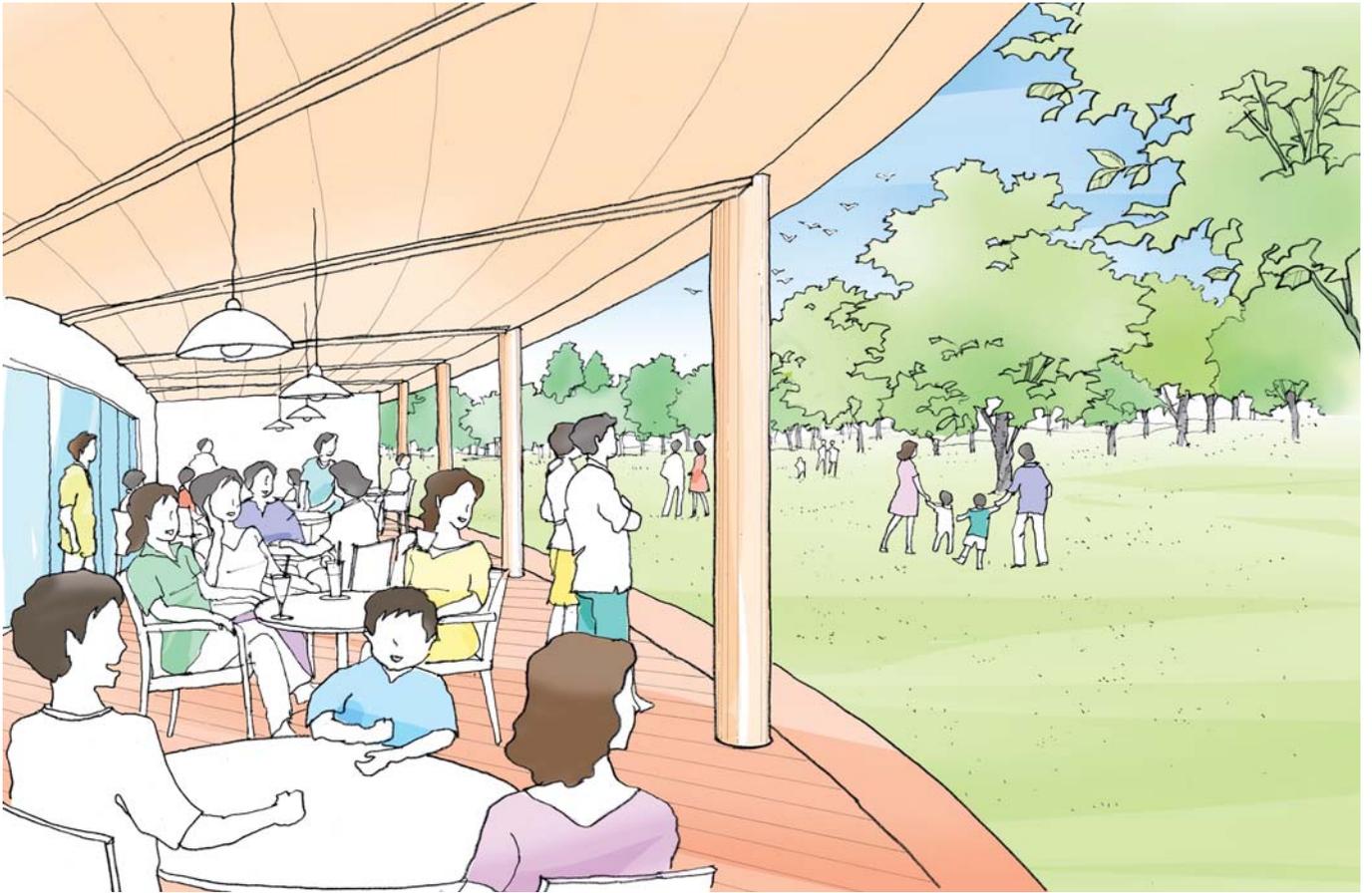
人と自然が共生できる環境づくりは公園から発信できることを知り、将来の選択肢を広げることができた。

## アクティビティのキーワード

- ・ 野鳥に関する研究や論文制作
- ・ 野鳥に関する学会の開催
- ・ 傷ついた野鳥の保護・手当
- ・ お土産品の開発
- ・ 自然モニタリング活動
- ・ インターンシップの受入



僕が野鳥公園に戻ってきたことは おそらく必然だったと思う  
いま幼き日の記憶よりも 大きく成長した野鳥公園と僕がいた



野鳥公園に居心地の良いカフェテラスが誕生した。

公募で選ばれた、エコ活動に力を入れている企業が運営しているだけあって、体にやさしいメニューが充実している。賃料に加え、店舗での売上げの一部を野鳥公園運営の費用にあてているそうだ。

私も、地域社会参加などの地域貢献活動を行っているかどうかを判断材料のひとつに就活し、現在は会社のボランティア活動で野鳥公園での清掃活動に参加している。

また、このカフェでは、月に一度「ラウンジカフェ」という語り合いの場が開催されており、この公園の今後についてお茶を飲みながら様々な人たちがアイデアを出している。

セグウェイやレンタサイクルというアイデアも、とある企業が気に入ってくれて、広告付き車体の寄付で実現したものだ。野鳥公園で知ったエコパークゾーンの見どころまで気軽に出かけられようになっただけで本当に便利だ。



## アクティビティのキーワード

- ・野鳥カフェテラス (ソーシャルビジネス的活動)
- ・セグウェイ・レンタサイクルなどでアイランドシティを散策
- ・野鳥公園を拠点とした活動 (ラウンジカフェの継続)
- ・自然観察のための市民交流の拠点



野鳥とともに過ごす くつろぎのひととき

みんなが集まり みんなが笑い みんなが対話する場ができた



結婚を機に、新居を探すにあたって迷わずアイランドシティを選んだ。小さいころから通っていたか、野鳥公園の近くで暮らすのが夢になっていたからだ。大学時代のインターンシップで知り合った他県育ちの妻もこの事はよく知っていて、あこがれの住宅地だったそうだ。

引っ越して半年が経過したが、休みの日は公園でのエコガイドとして活動している。子どもの頃、ラウンジカフェや体験プログラムに参加して皆で協力してつくった園路を見るたびに、幼き思い出がよみがえる。

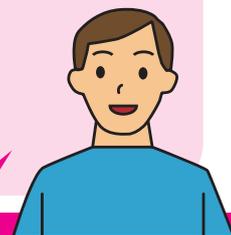
妻も公園で開催されている「野鳥が食する植物によるガーデニング講座」に通うことを手始めに、ここでのコミュニティ活動に参加しつつある。自宅の庭に野鳥が飛んでくる日も近いかもしれない。

ちなみに、婚約指輪の購入には少しこだわった。指輪の売上げの一部を野鳥公園に寄付するという特別限定品で、この企画に賛同したデザイナーが無償でデザインしたというプレミアム商品だ。

ここからこの地で、野鳥とともに新たな家族との幸せな思い出をたくさんつくっていきたい。

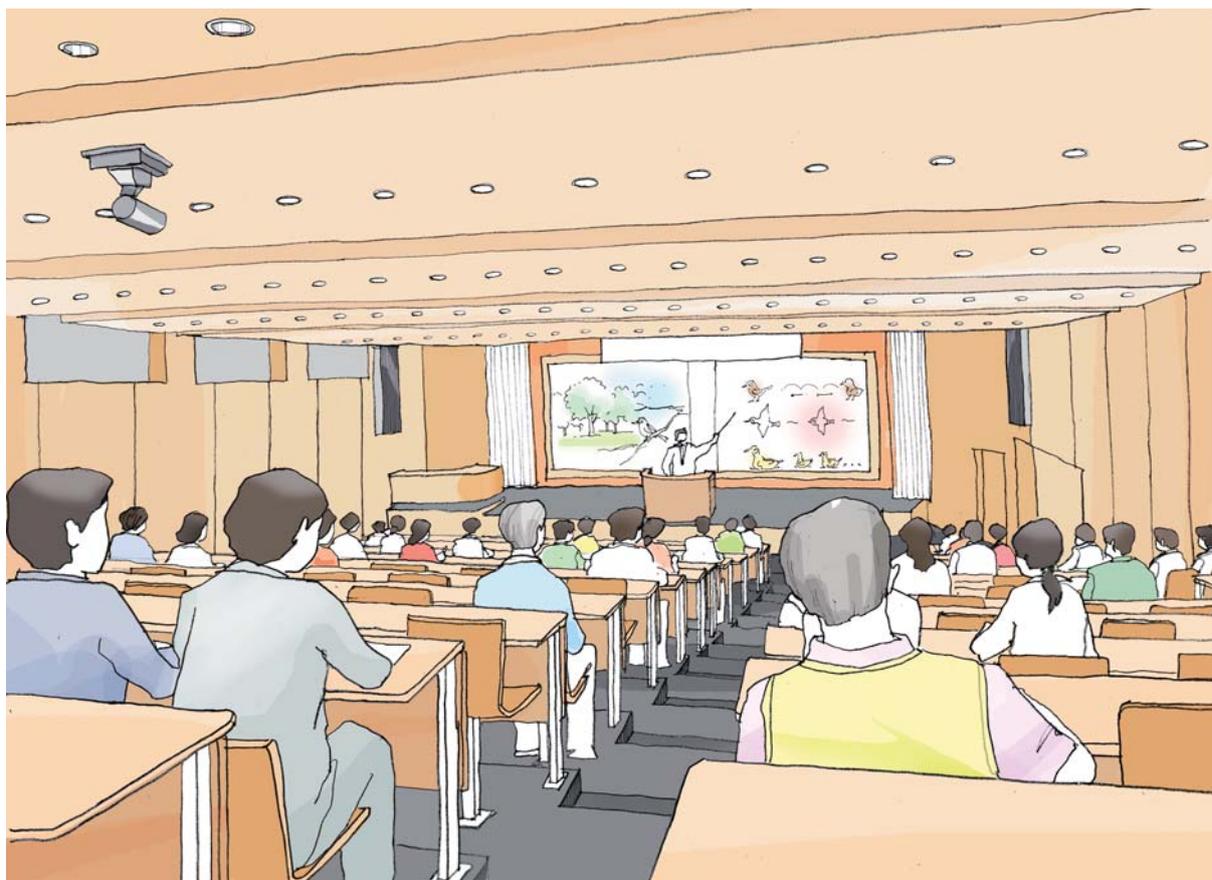
## アクティビティのキーワード

- ・ 結婚記念品の購入（寄付）
- ・ アイランドシティへの移住
- ・ 地域コミュニティの成熟
- ・ 野鳥が食する植物を庭に植える
- ・ 野鳥公園ファンド
- ・ エコガイド



鳥たちと 誓いを胸に 旅立つ日

新しい家族のストーリーが また1ページ加わった



ここ数年でまちとして成熟したアイランドシティへの関心が高まり、アイランドシティへの観光客がぐっと増えた。野鳥公園の先進的な取り組みが注目を集め、アイランドシティ全体のイメージが向上したためだろう。野鳥に関する国際会議も増え、公園には野鳥観察をする外国人旅行客の姿も多くなった。

野鳥の森が成長し餌場や営巣場が豊富になり、観測される野鳥の数が増えたことと、四季折々の景色が素晴らしいこと、市民や企業が協力して施設や運営を充実してきたことが要因だろう。

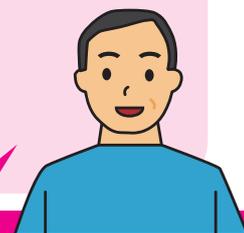
また企業による CSR 活動の先駆的な事例として、視察や研修に訪れる企業や自治体も多い。この公園の管理運営には様々な団体が関わり、企業経営手法の長所が取り入れられているため、来園者の満足度が高いとのことだ。

ラウンジカフェの初期メンバーがこれまでパークマネジメントの中心を担ってきたが、そろそろ世代交代が必要ということで、最近では若い人にも参加者から運営者の視点に立つよう指導を心掛けている。

※CSR…企業が事業活動において利益を優先するだけでなく、様々なステークホルダーとの関係を重視しながら果たす社会的責任。

アクティビティのキーワード

- ・ 樹林地、餌場の充実
- ・ 観光客の増加（特に海外からの来場者増）
- ・ 企業による CSR 活動、研修、企業 PR の場
- ・ パークマネジメントへの参画



野鳥がつなぐネットワーク

日本や世界を越えてみんなが笑顔でやってくる



子どもも独立し、会社の定年を迎え第2の人生が始まった。そういえば、私が生まれた時に、両親と一緒に植樹したヤマモモの木を久しぶりに見に行ってみた。ネームプレートは古ぼけていたけど、空に向かって広げた枝には、たくさんの鳥たちがとまっており、懐かしい昔を思い出させてくれる。

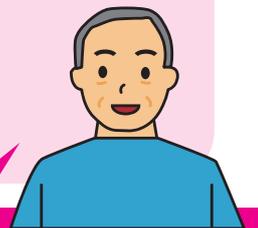
最近、野鳥公園でのガイドボランティアの養成講座の講師と、地域安全見守り隊での活動でけっこう忙しく、やりがいを感じている。

子どものころから参加してきた自然モニタリング活動のデータの積み重ねにより、公園の維持管理マニュアルも完成しつつある。

野鳥を通じて交流が続いている海外の愛鳥家を訪ねる旅も企画中だ。野鳥公園に関わることで私の人生も何倍も充実したものとなったと感謝している。

## アクティビティのキーワード

- ・ ガイドボランティア養成講座
- ・ 世代間交流
- ・ 維持管理マニュアルの充実
- ・ ラムサール条約登録を目指す活動
- ・ 海外の愛鳥家を訪ねる旅



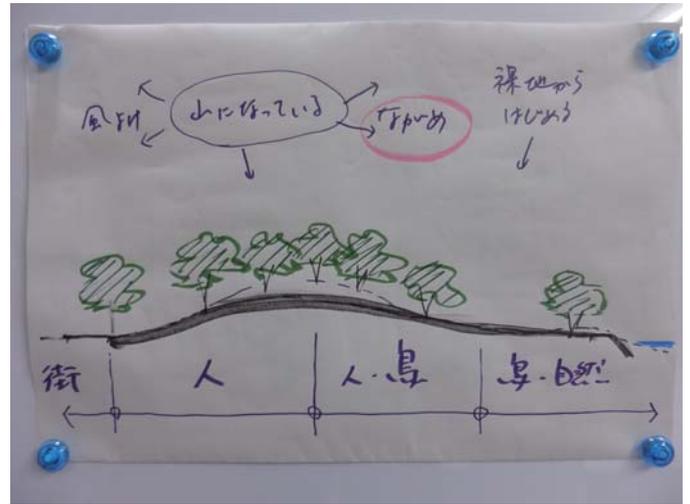
「ありがとう」 っていうのは照れくさいけど

僕と君と一緒に育ったこの野鳥公園に恩返しをしたいんだ

# 【トピック：海と大地の視点】



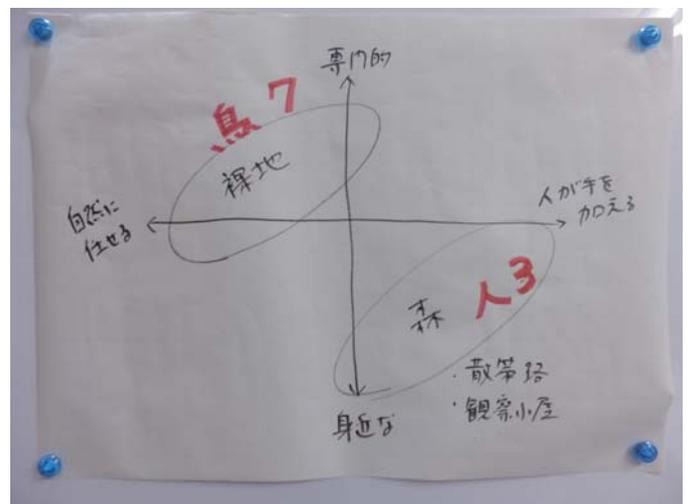
美しい風景を創っていくことも大事な視点。  
 様々な生き物にとって快適な空間が、きちんと  
 維持管理されていけば、美しい風景もそこに  
 生み出されるのではないだろうか・・・



アイランドシティの中にも森があるといい。  
 森が自然と育っていく中で、人のエリア、野鳥  
 のエリアが形成されていく。一部は小高い山  
 のようになっており、街への北風を防ぎ、海への  
 眺望点となる。



生物多様性の受け皿となる空間が必要。  
 干潟は多くの生き物の共生の場となる。  
 人はそこで繰り広げられる生き物の営み  
 を通じて、自然そのものを学ぶことができる。



どこまで作り込むのかをきちんと考える。  
 例えば裸地を準備して、自然の営みに任せなが  
 らその反応を見守るというやり方もあるかもし  
 れない。

元気な土、きれいな水、生きた湿地 たくさんの生き物に囲まれて  
 年をとればとるほど愛されて、未永くこの地に根付きたい

## アイランドシティを取り巻く自然環境

福岡市は博多湾や豊かな自然環境に恵まれており、アイランドシティが位置する博多湾東部は、国内有数の渡り鳥の飛来地である和白干潟や稚子魚を育む浅海域、希少な海浜植物が生育する海岸などを有する自然豊かなエリアである。

150万都市・福岡市にありながら、多種多様な生きものの命を育む豊かな生態系を支えるとともに、バードウォッチングや潮干狩りなど、身近な自然とのふれあいの場を提供する、福岡市の財産ともいえるべき価値ある空間である。



## 自然と人の共生をめざすエコパークゾーン

平成元年の港湾計画で、博多湾東部の海や海岸、和白干潟等の自然環境を保全するため、これまで陸続きであった埋立計画を島方式に変更した。これにより保全された空間を、自然と人の共生をめざす「エコパークゾーン」と位置付けた。

エコパークゾーンは広大で様々な地域特性を有していることから、4つのゾーンに分けて地域ごとの特色を活かしながら、自然環境の保全・創造に向けた様々な取り組みを行っている。

## エコパークゾーンと野鳥公園

福岡市では、野鳥観察などを通じてエコパークゾーンの豊かな自然環境の魅力を感じてもらうため、環境共生のまちづくりをめざすアイランドシティに野鳥公園（約12ha）を計画している。

博多湾東部に飛来する野鳥は、エコパークゾーンだけでなく、周辺の緑地帯や名島海岸、多々良川河口なども一体となって利用しており、また、野鳥公園は、アイランドシティの緑地帯（グリーンベルト）の一角をなし、国指定鳥獣保護区の和白干潟に面する場所に整備する予定であることから、博多湾に訪れる様々な渡り鳥を観察することも期待できる。



# 1. 野鳥公園の位置付け

## 野鳥公園整備についての検討の経緯

平成元年7月

### 港湾計画改訂

- 博多湾東部の海や海岸、和白干潟などの自然環境を保全するため、埋立方式から島方式への変更



平成5年4月

### アイランドシティ基本計画

- 緑地計画の中で親水緑地として位置づけ
- 立地特性を生かし、野鳥観察などを通して市民が気軽に身近な自然とふれあうことができる空間を創出



平成6年5月

### アイランドシティ整備事業 公有水面埋立免許取得

- 運輸省（現国土交通省）港湾局長の指導「野鳥公園を含むエコパークゾーンについては、鳥類等の生息環境として保全するための方策を講じること」

平成18年5月

### 福岡市野鳥公園基本構想

- エコパークゾーンとの機能分担及び連携をはかる
- 多くの市民が訪れ、自然のすばらしさを体験してもらう
- エコパークゾーンについて情報発信することにより、環境学習のきっかけづくり
- 初期段階では基本的な整備のみを行い、その結果を見ながら必要な整備を追加していくなど柔軟に対応（順応的管理手法）

平成21年12月

### アイランドシティ事業計画

- アイランドシティのまちづくりの方向性である「みんなで関わる」を実践する場の一つとして様々な主体が連携しながら運営に関わっていく
- アイランドシティの魅力向上の一翼を担う

平成24年8月

### 博多港長期構想

- エコパークゾーン全域を人と自然が共生する大規模な野鳥公園ととらえ、国内外に発信できるような新しい環境モデルの構築

平成24年11月

### 野鳥公園ラウンジカフェ

平成25年12月

- コンセプト「成長する野鳥公園」に基づき、野鳥公園でできることをストーリーボードとして表現

## 2. 整備にあたっての基本的な考え方

陸ガモ類

出典：「エコパークゾーンガイドブック」



ヒドリガモ



オナガガモ



マガモ



ツクシガモ



カルガモ



オカヨシガモ



コガモ



ハシビロガモ

海ガモ類

カイツブリ類



スズガモ



ホシハジロ



キンクロハジロ



カンムリカイツブリ

シギ・チドリ類



ハマシギ



トウネン



ミユビシギ



キアシシギ



チュウシャクシギ



アオアシシギ



ソリハシシギ



シロチドリ



メダイチドリ



ダイゼン



ミヤコドリ

サギ類

トキ類



ダイサギ



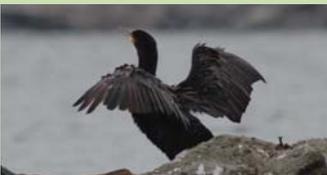
アオサギ



クロツラヘラサギ

ウ類

カモメ類



カワウ



ウミネコ



ユリカモメ



コアジサシ

3. エコパークゾーンに生息する鳥の種類

## 野鳥公園ラウンジカフェとは

「野鳥公園ラウンジカフェ」は、多様な主体からの多くの意見を取り入れながら検討を進めることを目的として、NPO等の関係団体をはじめ、大学・学生、事業者、一般市民、行政などによる協議・情報集約・発信の場です。

ラウンジカフェは、平成24年11月から始まり、参加者は意見交換を行いながら、野鳥公園の整備や活用、運営に向けて語り合ってきました。



## ラウンジカフェの経緯

- 平成24年11月 ● 第1回ラウンジカフェ ..... 野鳥の観察会で野鳥のことをちょっと知り、「野鳥公園とは？」を全員で話し合いました。
- 平成25年 1月 ● 第2回ラウンジカフェ ..... 市民・地域住民・野鳥・子ども・専門家の立場になりきり、野鳥公園でできることを探し、32のコンセプトを見出しました。
- 3月 ○ 「野鳥に会いに行くバスツアー」
- 3月 ● 第3回ラウンジカフェ ..... 32のコンセプトの中から、特に大事なものを選び、野鳥公園の使い方や活動を話し合いました。
- 5月 ● 第4回ラウンジカフェ ..... 野鳥公園の計画予定地を全員で視察し、たたき台としての大図面に具体的な意見を出しました。
- 6月 ● 第5回ラウンジカフェ ..... ブロックを用いて、理想的な野鳥公園を表現し、自分が野鳥公園に貢献できることを考えました。
- 9月 ● 第6回ラウンジカフェ ..... コンセプト案として「成長する野鳥公園」を提示し、野鳥公園で繰り広げられる様々な場面（シーン）を考えました。
- 11月 ● 第7回ラウンジカフェ ..... オープンセッションに向け、市民のみなさんに伝えたい、理想の野鳥公園像をストーリーボードにまとめました。
- 12月 ○ オープンセッション
- 12月 ● 第8回ラウンジカフェ ..... オープンセッションを受けて多くの市民意見が反映された、野鳥公園の将来像をまとめ上げます。

# 4. 野鳥公園ラウンジカフェ

## 平成24年11月：第1回 野鳥公園って何だろう



前半の観察会では、参加者は望遠鏡越しに野鳥の様々な生態を観察し、博多湾に飛来する野鳥の種類や野鳥が生息するために必要な環境などについての基礎知識を得ることができた。後半では、「野鳥公園って何？」について語り合い、「自然に気づききっかけとなる公園」、「鳥も人もほっとできる場所」、「環境教育の場」、などといった、野鳥公園のコンセプトにつながる意見が多く出された。



## 平成25年 1月：第2回 ○○ができる野鳥公園を考えよう



今回は各参加者が与えられた役になりきって、役の立場から話し合いを行うロールプレイ形式で話し合った。「市民」「地域住民」「野鳥」「子ども」「専門家」それぞれから新たなアイデアや発見が生まれた。





一般公募によるきらら浜自然観察公園へのバスツアーを行った。41名が参加し、当日は、現場でインタープリター（ガイド役）の解説を聞きながら、園内を散策し、様々な野鳥に出会うことができた。敷地内は淡水池、汽水池、干潟、ヨシ原といった多様な野鳥のための環境を創出しているが、干潟の水の流れの不足によるヘドロ化や汽水池の維持管理の困難さといった問題も多く抱えており、今後の野鳥公園整備の中における設計条件を検討する際の示唆を得ることができた。



野鳥公園で大切にしたいコンセプトとして、子どもが育つ公園、鳥と近からず遠からずの距離感を保つ、福岡市やアイランドシティの顔となる公園、という3点の共通認識が得られた。また、検討図案の作成を試みたが、素案の作成までには至らなかった。今回各グループから出された野鳥公園のコンセプトをすりあわせ、その内容を共有したうえで、野鳥公園の設計条件を固めていく必要があることが確認された。

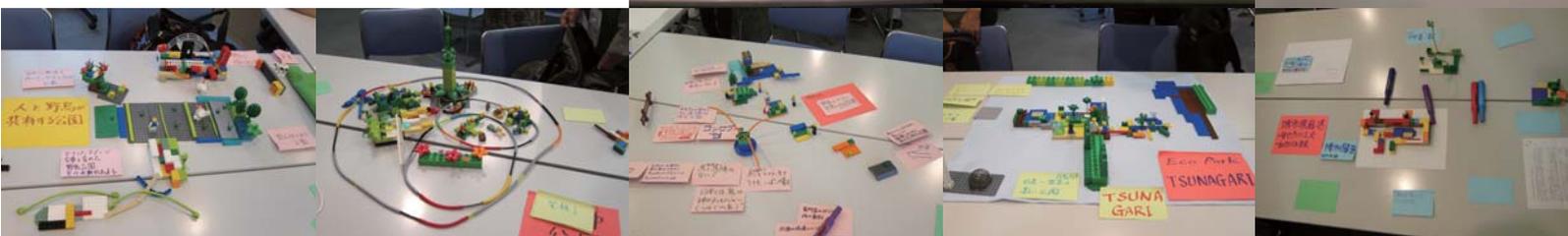




前回は「大きな干潟をつくろう」という声が多く挙がったが、予定地視察を終えて、ここに干潟をつくる意味は何かという議論に展開した。実際に図面に描きこむことで、周辺環境との関係性や管理施設の形状なども話しやすくなった。ラウンジカフェでは周辺環境との関係からみた野鳥公園の役割、野鳥との共生について、多くの意見が出された。



三次元モデル（ブロック）による議論により、参加者が野鳥公園にもつ価値観（内観）の発見と共有を効果的に促すことができた。そのプロセスを通じて、理想的な野鳥公園を実現していくために、野鳥と利用者の空間の棲み分けを行うなどの共生に向けた整備の必要性や、整備後も関係者が野鳥公園に関わりを持ち育てていくことの必要性などの声が挙がった。





第5回までのラウンジカフェを振り返り、コンセプトとして「成長する野鳥公園」が提示され、基本的な方向性と目指すべき将来像が説明された。それをもとに、今後はより具体的な将来イメージを検討するため、野鳥公園で展開されるシーン（場面）を話し合い、参加者からは多くのシーンが描き出された。話し合われた内容は、スケッチとストーリーからなるストーリーボードにまとめ、野鳥公園ラウンジカフェの市民意見として提案する。



第6回に引き続き、野鳥公園で展開されるシーン（場面）について具体化を行った。第6回まで出された様々なアイデアをまとめたスケッチとストーリーからなる約20枚のストーリーボード（案）を一枚ずつ確認し、必要とするアクティビティの精査や多くの人に分かりやすく伝えるためのシーン（場面）の表現について肉付けを行った。





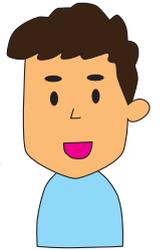
## このストーリーボードはどのようなもの？

今回のオープンセッションにていただいた皆さんからの意見を踏まえて、12/22（日）に最終回となる第8回野鳥公園ラウンジカフェを実施します。  
そこを経てとりまとめた案を、来年1月に予定している第2回野鳥公園整備に関する検討委員会に提出して、整備内容について議論していきます。  
最終的には来年3月末を目処に「野鳥公園基本計画」としてとりまとめていきます。



## 野鳥公園は、いつできるの？

今回の公園づくりにおけるコンセプトは『成長する野鳥公園』となっており、完成を急ぐというより、出来上がるまでのプロセスを市民とともに考え、実施していくことに重点を置いています。  
着工につきましては、アイランドシティのまちづくりの進捗状況を踏まえながら、できるだけ早期着手できるように検討を進めます。



## 野鳥公園ラウンジカフェは、今後どのようなもの？

多様な主体で対話する野鳥公園ラウンジカフェという場は、今後も継続していきたいと考えています。  
想定としては、『成長する野鳥公園』に基づき、具体的な活動プログラムを検討及び実施しながら、将来的にはパークマネジメント\*に繋げていきます。

### パークマネジメントとは？

公園を管理運営する仕組みのこと。  
市民が中心となって公園の活用プログラムを作り出して、多様な主体と連携しながら、利用増進を図るとともに、持続的に楽しめるコミュニティを創出する。



行事の共催  
(地域連携)



自然観察会  
(NPO連携)



維持管理作業  
(ボランティア連携)

# 5. 今後の予定